

情報公開用文書 (単施設研究用)

西暦 2026 年 1 月 26 日 作成

(第 1 版)

研究課題名	脛骨後方傾斜がハムストリング腱を用いた前十字靭帯再建術後における膝前方不安定性に与える影響
研究の対象	膝前十字靭帯損傷の患者さまで、2022 年 5 月 1 日から 2025 年 8 月 31 日の間にハムストリング腱を用いた初回前十字靭帯再建術後のインプラント抜去手術の治療を受けた方のうち、初回手術時の年齢が 40 歳未満の方を対象とします。
研究の目的	前十字靭帯再建術後の成績は向上しているものの、術後の再断裂やゆるみが残存する患者さんがいます。脛骨後方傾斜が大きいと再断裂率が高いことは国内外で報告されていますが、術後の前方不安定性（ゆるみ）と脛骨後方傾斜の関連についての報告は限られます。この関連を示すことで、手術前にリスクの高い患者さんを推測することができ、今後の手術成績の向上に役立てることを目的としています。
研究の方法	診療録から情報を収集して、単純レントゲンと単純 MRI から測定した脛骨後方傾斜とインプラント抜去時に計測した膝前方不安定性データとの関連（相関）について検討します。 通常の診療で得られた情報を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究の期間	研究機関の長の許可日 ~ 西暦 2026 年 12 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の種類	【情報】診療録から以下の情報を収集します。 ・年齢、性別、受傷側、受傷機転 ・身体所見：BMI 画像所見：単純レントゲン、単純 MRI による脛骨後方傾斜角 ・手術時の測定データ：Knee-lax（脛骨前方不安定性の定量データ）
試料・情報の 授受	本研究では、外部機関との試料・情報の授受はありません。
個人情報の管理	検体・情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう対応表とよばれる個人と識別コードを対応させた表を作成しますが、その表は当院外へ提供することはありません（ので、当院外の機関が個人を特定することはできません）。

<p>試料・情報の管理 について 責任を有する者</p>	<p>研究責任者：横浜南共済病院 整形外科 渡辺 大樹</p>
<p>利益相反</p>	<p>利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の関係を含むものです。今回の研究において、利益相反はありません。</p>
<p>研究組織</p>	<p>【研究機関と研究責任者】 横浜南共済病院 整形外科 (研究責任者) 渡辺 大樹</p>
<p>本研究に関するご質問がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記の連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。 また、情報・試料が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	
<p>問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 〒236-0037 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-21-1 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 電話 045-782-2101 (代表) (平日 8 時 30 分から 17 時 15 分まで) FAX 045-701-9159 連絡先対応者 (研究責任者) 整形外科 役職 医長 責任者名 渡辺 大樹 *お問い合わせ内容によっては、こちらから改めてご連絡をさせて頂くことがあります。あらかじめご了承ください。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

西暦 2026 年 3 月 11 日 承認